

古典を読む能力と意欲を互いに高め合う授業

—「思考の引き出し」を増やして活用する「ジグソー学習」を軸として—

長期研究員 梅野 克也

I 研究の趣旨

私は、古典の授業で、古人の言葉と向き合って主体的に学ぼうとする生徒を育てたい。そのためには、「教師が何をどのように教えるか」という視点から「生徒が何をどのように学ぶか」という視点への転換が必要である。そこで、個々の生徒が切磋琢磨し、読む能力を互いに向上させていくとともに、学ぶ意欲も高め合っている古典の授業を構築したいと考えた。その手段として、「ジグソー学習」を用い、生徒自らが知識・理解に基づく思考を他者と共有し合って自分の考えを広げたり深めたりする授業の在り方を研究することとした。本研究では、自分の考えを形成するための様々な構成要素を、「思考の引き出し」と名付けた。

II 研究の概要

1 研究仮説

高等学校における「古典」の指導において、以下の手だてを講じれば、生徒は、古典を読む方法を学び、「読む能力」と古典学習への「関心・意欲・態度」を互いに高め合うことができるであろう。

【手だて1】 指導内容の精選と学習過程の明確化

【手だて2】 「ジグソー学習」を用いた協調学習

2 研究の内容と実際

次の(1)、(2)について、研究協力校の第2学年(2学級78名)を対象として(3)のように授業実践を行い、生徒への評価を通して指導の効果を測った。

(1) 指導内容の精選と学習過程の明確化

指導内容を精選し、習得すべき学習項目を単元の最初に学ばせ、その知識を学習過程で活用させることにより、生徒を主体とした学習を充実させる。また、ワークシートとWebサイトを活用させることで予習から復習までの過程を明確にし、単元の最後の授業で知識の再習得を促す。

(2) 「ジグソー学習」を用いた協調学習

教材の本文を分割し、各班(ジグソーグループ)ごとに担当者を決め、同じ部分の担当者同士が新たな班(エキスパートグループ)で学習する。その班では、本文の音読、品詞分解、口語訳及び基本的な読解についての協調学習を行う。その後、元のジグソーグループに戻って互いに教え合い、それぞれの学習内容を結び付けて教材全体を学び、読みを深める。指導者は、必要に応じて助言を与える。単元の最後には、共有した学習の過程と内容を一人一人が振り返って文章化する「ジグソー課題」と学習内容の理解度を確認する「確認課題」を設定する(図1)。

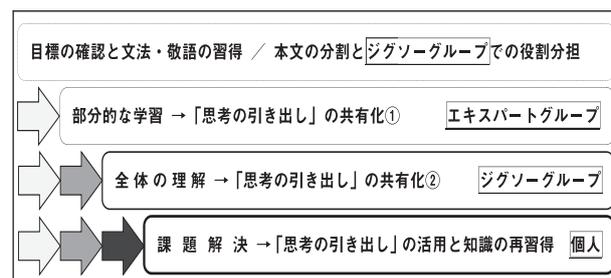


図1 「ジグソー学習」を軸とした単元の流れ

(3) 授業実践

① 思考を広げる授業

『蜻蛉日記』の「うつろひたる菊」を教材とし、本文を4分割して「ジグソー学習」を実施した。全5単位時間の1時間目には読解に必要な文法事項などを講義形式で学習させ、2時間目以降に「ジグソー学習」を展開した。読解では、作者である「道綱母」とその夫「兼家」の人物像を整理させた。5時間目には、「道綱母と兼家についてどう思うか」という「ジグソー課題」と、文法事項及び解釈に関する「確認課題」に取り組ませた。

課題に対する記述を分析したところ、内容面の理解度は高く、多様な「思考の引き出し」を組み合わせ、意見を構築していることが分かり、生徒たちの思考の広がりが確認できた。しかし、文法理解の面

では顕著な向上が認められなかったため、次の授業実践へ向けての課題とした。

② 思考を深める授業

『和泉式部日記』の「夢よりもはかなき世の中」を教材とし、本文を4分割したが、最初の4分の1は全7単位時間の1時間目に講義形式で指導した。2時間目には、身に付けてほしい文法事項と敬語の用法を明確にして学習させ、その知識を活用して考えられるよう工夫した。そして、3時間目以降に、残り4分の3の本文で「ジグソー学習」を実施した。

「ジグソー課題」は、「『女』の贈答歌に込められた思いを、帥の宮への手紙として書き改めよ」とした。的確な読解に基づいた手紙をB、それに加えて思考力と想像力を働かせて具体的に表現した手紙をAとし、3段階で評価したところ、93%の手紙がB以上と評価できた。Aと評価できたのは全体の71%の手紙で、生徒たちの思考の深まりを確認することができた。

「確認課題」は、敬語・助動詞・正確な口語訳及び内容についての理解度を測るものとし、それぞれ点数化した。到達目標を達成した生徒は全体の86%であった。項目ごとに見ると、内容の理解に関しては96%の生徒が目標に到達し、難易度の高い敬語の理解でも73%の生徒が目標に到達した。「ジグソー課題」の評価と「確認課題」の点数には正の相関があることも確認できた。

3 考察

(1) 指導内容の精選と学習過程の明確化

その単元で何を身に付けるのかという習得目標を授業の最初に提示し、習得の過程を明確にした結果、生徒は必要な知識を自覚的に習得し、その知識を「ジグソー学習」の段階で活用することができた。

また、学習支援用のWebサイトの活用は、全生徒が授業中に学ぶべき内容と、Webサイト上の任意の学習で補完すればよい発展的内容の仕分けを可能とするため、指導内容の精選においても有効であった。

(2) 「ジグソー学習」を用いた協調学習

事前・事後に実施した意識調査で、「古典」の授業における「話し合い」の必要性を尋ねたところ、「必要」と回答した生徒が事前調査では35%だったのに

対して、事後調査では92%に増加した。また、「ジグソー学習」に対する自由記述式の感想では、次のような記述が多く、学びの実感が確認できた。

- 普通の授業より知識が身に付いた実感がある。
- 自分で考え、意見が聞けるので、授業が楽しい。
- 協力して学習することで、より理解が深まった。

本実践では、知識を活用したり、前後の文脈から考えたり、他の部分と比較したりという思考の過程を友人と共有することで、「思考の引き出し」を増やし、理解を深めることができたと言える。主体的な学習者同士が共に考えていくことによって、答え(結果)ではなく、考えながら学んでいく方法(過程)を学んだのである。意識調査からは、古文を学ぶことへの関心の深まりも確認できた(図2)。

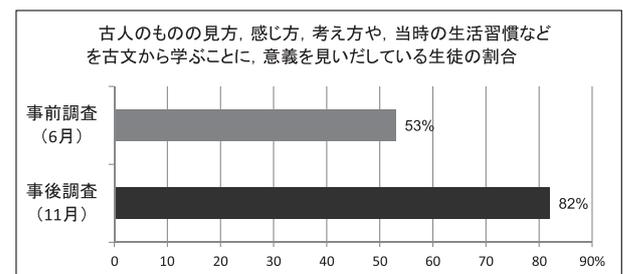


図2 意識調査「古文の学習意義」

Ⅲ 研究のまとめ

1 研究の成果

生徒たちが「読む能力」と「関心・意欲・態度」を互いに高め合い、多様な見方、感じ方、考え方を身に付ける古典の授業を行う上で、「ジグソー学習」を軸とした学習過程の構築は、有効な手だてであると言える。また、指導内容を精選して最初に目標を示し、習得の過程を明確にすることが、「ジグソー学習」の効果を高めることも確認できた。

2 今後の課題

班ごとの活動で聞き役となっている時間が長い生徒は、「ジグソー学習」を経ても理解度が低い傾向にある。自由記述式の感想を読むと、積極的に自分の意見が言えない生徒でも意欲は向上していることが分かるので、運用面で工夫・改善を加えていく。

また、他の様々な学習法との効果的な組合せを考え、3年間を見通した実施計画を作成する。